



KANSAI  
UNIVERSITY



# CTL Kansai University Center for Teaching and Learning Newsletter

関西大学 教育開発支援センター  
ニュースレター

December 2014

vol. 16



## 大学教育の重要性

教育推進部副部長／社会学部 教授 片桐 新自



今や、大学は、日本の教育システムの中では、小学校教育とともに、人間力を伸ばすことができる非常に重要な教育の場になっています。特に、関西大学に入学していくような学生たちにとって、中学と高校は志望大学に合格するという目標を忘れては過ごすことのできない場となっており、もしも教師が人間力を伸ばしたいと思っても、多くの生徒たちはそんな能力は受験には関係ないと考え、関心をなかなか示してはくれないものです。

しかし、大学に入ると、その先にあるのは、就職、そして社会人として生きていくことです。厳しい就職戦線に勝ち抜き、人生をたくましく生きぬいていくためには、高い人間力が必要ですが、この人間力は、これまでの受験勉強のような、傾向と対策を知れば伸ばせるというものではありません。求められるのは、まさに総合力です。この総合力=人間力を伸ばす上で、大学教育が非常に重要なのです。

教養や論理的思考力はもちろんですが、企業（だけでなく社会）でもっとも求められるコミュニケーション能力も、プレゼンテーション能力も、問題発見能力も、自己や他者を的確に把握する能力も、大学教育の中で鍛えることができます。教える側の大学教師がこうした能力を伸ばすことを自覚的に意識し

試みれば、学生たちの人間力は確実に伸びていきます。

そのための方法はといえば、当たり前かもしれません、本人のやる気をいかに引き出すかということになります。学生を一律に叱咤激励しているだけでは効果はほとんどありません。一人一人の学生のパーソナリティと能力を的確につかみ、それぞれの学生に応じた指導を丁寧にしていかなければなりません。時間も気も違う大変な仕事ですが、実際に学生たちの人間力が伸びたことを実感できた時の喜びはこの上ないです。

こうした丁寧な指導は、ゼミなど少人数で運営される授業でより効果を發揮することは間違いないですが、最近はICT教育が進み、講義科目でも、かなり双方向的な授業が可能になっています。また、こうした新しい技術を駆使しなくとも、現在の学生たちの知識がどの程度のものなのか、どういうことには関心を持ちそうなるべく正確につかみ、適切な刺激を与えるなら、講義科目でも学生たちを成長させることはできます。

いろいろ書いてきましたが、最後に、学生を伸ばすことを楽しめる大学教師が多ければ多い程、その大学の教育は大きな効果をもたらすものである、と指摘してこの小文を終えたいと思います。